

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日	令和3年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2170200535-00&SerVieCeOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恒例となっている年2回の大イベントは、新型コロナウイルス感染予防として中止になりましたが、隣接の「交流センター」では喫茶コーナーにて近隣の方がみえますが、感染予防の為挨拶を交わすことのみとさせて頂いている。「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」との理念を念頭に、言葉遣いに気を付け、笑顔・尊敬する気持ちを忘れない様に務めている。＜本人本意＞の支援を心掛けている。それは、何を希望され、何に困って見えるか、＜いま＞＜ここで＞どのような気持ちでみえるのか等、声なき声を聴き、対応していくこと、認知症の人の心の世界を理解しようと努め＜安心＞して頂く事、＜本人らしさ＞＝本人固有の生き方を大切にすることである。介護業務という考えではなく、入居者様の出来ない部分のお手伝いをさせて頂くという気持ちで日々努めています。職員も一緒にソファーに座って、会話をしている時間、歌を唄う時間など家庭的な雰囲気を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、今までの利用者の生活の背景を理解し、利用者を敬う気持ちを大切にして支援するように職員に伝えている。職員は、利用者の得意なことを見極め、出来ることをお願いしたり、一緒に取り組んだりして感謝の気持ちを伝え、利用者の笑顔ややりがいを引き出すように取り組んでいる。コロナ禍で外出することは難しいが、職員一人ひとりのアイデアや意見を作品作りやレクリエーションなどに取り入れて利用者の楽しみが増えるように工夫している。管理者と職員は情報を共有し、話し合いながら取り組むことで双方に気づき生まれ、職員同士が尊重し合い、明るい雰囲気の中で一丸となって取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げる事により目に入り意識づけられる。ミーティング時一同で読み上げることにより再確認している。家庭的な雰囲気であるゆったりと過ごせる時間を提供できている。	利用者が洗濯や調理などを共に行うことで、日常生活に役割を持てるような支援を心掛けている。管理者と職員は、理念について気付いたことを会議で話し合い、振り返って実践に繋がるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例となっている年2回の大きなイベントは、コロナ感染予防の為中止となりましたが、交流センターに来られる住民と挨拶を交わしている。	敷地内を散歩する時やプランターの野菜に水をやる時などに住民と挨拶を交わしている。コロナ禍で地域への行事に参加出来ない。事業所の状況や活動内容について地域への情報発信が少ない。	交流センターを活用するなどして、事業所の状況や活動内容を発信し、地域の社会的資源を発掘できるような取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流する中で、認知症への理解を得られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為紙面での開催を行っている。文章にて意見を頂いて反映させている。	コロナ禍のため書面で会議を開催している。報告するだけでなくメンバーから意見を返信してもらえるように工夫している。家族からサービスや面会などについて要望があり職員間で話し合っ対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加させて頂き、入居者様のケアについて専門職より意見を頂く機会があり、今後も積極的に参加させて頂きたい。	事業所でパソコンを購入し担当者と直接メールが出来るようにした。市主催の勉強会や研修会に参加し情報を交換している。虐待や身体拘束の疑問点を市の担当者に確認している。介護相談員を受入れ関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、看護師、介護福祉士等で、身体拘束等廃止委員会を3ヶ月に1回行ない身体拘束しないケアに取り組んでいる。その後職員の勉強会を行っている。	契約時に身体拘束を行わないことを家族に伝えている。身体拘束委員会や勉強会を定期的に行ない、拘束をしないケアに取り組んでいる。どのような言葉遣いが拘束になるのかを職員間で話し合いながら行動制限への理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束、虐待防止委員会を実施。職員間で話し合いを行い状況把握と対応を行っている。		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族と話し合い、契約時に管理者が契約に関し丁寧に説明し家族の方に理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議開催予定月に意見を記入して頂ける用紙を郵送して、ご家族様の要望を職員間で共有出来る様回覧している。	コロナ禍のため、家族に電話して利用者の状態を伝え、意見や要望を尋ねている。窓越しでの面会や食べたい物、など家族や利用者の要望を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員同士の意見交換をし、上司の意見も聞いて話し合い、サービスに反映させている。	代表者は、定期的に事業所を訪れて職員から意見等を聞いている。管理者は、職員の意見を大切に、相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。レクリエーションや作品作りなど職員のアイデアを反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場に顔を出されて、働きやすい職場環境に務めている。提案したケアを行うことにより改善がみられると仕事にやりがいを感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の向上を図るべく研修を受講出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネに関しては、定期的な研修、交流会に参加している。		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や入居時等に安心して生活できる場所として感じて頂けるようコミュニケーションを取っている。職員同士情報を共有し不安の解消信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とお話が出来る機会を設けている。家族も悩みがある場合が多い、家族様の話を傾聴し今後の支援に取り入れて、ホームでの生活を安心して送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等前情報を職員間で共有して、出来る限りニーズにあった対応が出来るよう心がけている。特に主治医との連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする中で入居者様は人生の先輩である事を意識して、尊厳を守り「介護している」のではなく「介護させて頂く」の気持ちで接している。馴れ馴れしい関係ではなく、家族の一員として接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や電話連絡時やお便りにて本人の生活状況を伝え、家族の思いを聞き本人と家族が今後より良い関係を築いていける為の支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級生同士の入居者様がみえ、食事席やソファ一席など隣同士になれるよう配慮している。	交流センターの喫茶に利用者の顔馴染みの方が来て交流している。コロナ禍で会えない方には、職員が利用者と顔馴染みの方との間に入ってお互いの気持ちを伝えている。携帯電話を持ち込まれている方は職員が電話を掛ける支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が出来る限り良いコミュニケーションを図ることが出来るように、リビング・食堂等の席をその都度考慮していくように努めている。		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、連絡を頂いた場合などは現状をお聞きしている。体調の悪化により入院が長引き退所になっても相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや希望を聞きとり 出来ることから始めている。困難な方でも声掛けし、表情を伺いながら検討している。	朝のバイタル測定やトイレ介助など1対1となった時に思いや意向を聞いている。テーブルに座って作品を作る時にも聞くことがある。利用者の思いなど申し送りで職員に周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に担当のケアマネさんより情報を頂き面接で本人、家族に生活歴等を聞き情報シートで職員と共有しコミュニケーションに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌の確認、申し送り等による把握、表情や行動の観察に努めている。無理強いする事なく、その方のペースで過ごして頂くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が問題点や気付いた事を提示し、支援方法をミーティング時に話し合い家族に報告している。	家族が衣替えや通院のために来所した時に利用者の状況を伝えて意見を聞いている。毎月のミーティングで家族と医師の意見、モニタリングの結果を伝え、職員間で話し合っ計画を作成している。状態が変化した時は速やかに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と変化があれば、必ず個人介護記録に記録している。介護記録や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。ケアプラン、モニタリング時、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて柔軟な対応に努めている。		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	相談員に来所して頂いている。訪問理美容、往診の利用を支援している。コロナ感染予防によりボランティアの依頼は中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、かかりつけ医の診察を希望され継続される方と、訪問診療している協力医に変更する方もある。認知症状が重い方には、専門医の訪問診療をお願いしている。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行する場合は、状態を記入した書面に返信欄を設けて渡し、結果を確認している。家族の都合が悪い場合は職員が同行し結果を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化・気づきでも記録や口頭で伝え受診の判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院まで医療機関の相談員と連携を図っている。カンファレンスなどにも積極的に参加して退院後につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明では看取りは行ってないと伝えているが、重度化してきた際にはどのように対応していくか、家族の希望もどこまで取り入れるか、訪問診療の主治医との連携も強化している。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。状態の変化に伴い、医師に相談して家族の意向を確認し、次に繋がるように支援している。家族より要望があれば、次の行き先が決まるまで事業所での生活を継続することは出来る。職員は、看護師より重度化した場合の対応について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請の手順はマニュアルがある。怪我の場合は、管理者と連携し緊急時の連絡方法も徹底し連絡しやすくしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。近隣の方には交流センターにみえたとき口頭にて火災時等の協力依頼をしている。災害の発生時に備えて飲料水・食品類を少し準備をしている。	事業所内に水や非常食、カセットコンロ等を備蓄している。交流センターに来られる方や運営推進会議で地域の代表者に災害時の協力要請を口頭で行っているが、訓練等の協力が得られていない。	様々な情報を地域に発信し、地域の住民に協力していただけるような関係性の構築を期待する。

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などは耳元で声かけしたり、少し散歩でもと言って他の人に聞こえないようにしている。うまく対応できない時は、職員が交代して対応している。夜間居室で使用するポータブルトイレは朝には清掃し片付けさせて頂いている。	管理者は、羞恥心や自尊心など利用者の気持ちに配慮した言葉の掛け方を工夫して欲しいと伝えている。職員は排泄を失敗した時は、自尊心を傷付けないような言葉掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、自己決定しやすいように声かけに配慮している。入居者様の希望に添えるよう強制しないような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の施設の流れはあるが、入居者様自身が拒否される時は無理強いする事なく時間を置いて声掛けを実施するなどの対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にてハンガーにかけてある服を好きなように着て頂いている。化粧品やヘアスタイル等、入居者様の希望を伺うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成するとき、季節物を入れ入居者様の要望も取り入れて、職員と一緒に楽しく食事が出来るように支援している。	利用者と一緒に育てた野菜を収穫して好みの献立を聞いて提供している。誕生日には、利用者と一緒にケーキを作りお祝いしている。職員も一緒に食卓を囲み、会話しながら美味しく食事が出来るように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的(起床時、10時、11時、14時、15時、17時)な水分補給のほか、水分摂取の少ない方へは 何度も摂取を勧めている。またご飯の減量・おかずの量・硬さ・大きさの調整、工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助、1日1回の義歯消毒を行い清潔保持に気を付けている。		

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にパターンを把握し失禁等がないように早めにトイレ誘導をしている。排泄状態に応じて紙パンツから布パンツに変更している。	職員は、利用者のしぐさを注意深く観察し、サインを見逃さずに早めに声を掛けてトイレに誘導している。布パンツの利用など利用者の意向を確認しながら自立支援に繋がるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下肢運動、廊下の歩行訓練を実施している。朝食にバナナを提供し、それでも未排便時は、主治医に相談し下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に3回午前中の入浴を行っている。本人が希望しない時は強要せず進めている。入浴中はゆっくりしてもらい本人ペースで出来る事をして頂くようにしている。	入浴の順番や湯温など利用者の希望を叶えている。一人でゆっくり浸かりたい方には扉の外から声を掛けながら様子を伺っている。菖蒲湯や柚子湯など季節が感じられるように取り組んでいる。昔話や世間話をしながら楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば、居室で休んで頂いたりソファにてくつろぎ傾眠の妨げにならないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて確認している。変更があった場合連絡帳で伝えている。誤薬や飲み忘れがないよう服薬時には職員間で名前・日付の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ・片づけ・お盆ふき・台拭きなど、くらしの中で出来る事を行っている。楽しみごとの支援としては、レクリエーションを通して楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防として外出は避けている。敷地内は職員が同行している。	コロナ禍前は、桜や紅葉など季節の花見やドライブに出掛けていた。天気の良い日には職員と一緒に事業所の敷地内を散歩している。利用者の要望を家族に伝えて盆や法要に帰宅する方や家族に協力を得て外出に出掛ける方もいる。	

グループホームだいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防として外出できず、お金を使える機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を携帯されている方は居室で好きな時にかけて頂いたり、電話をしたいと希望される方は、事務所で出来るようにしている。年賀状を出したり 家族からの手紙をみて楽しまれたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、入居者様に作成して頂いた季節感のあるカレンダー作りを心がけ、ベランダで野菜作りもしている。季節によってひな人形・五月人形・クリスマスツリーも飾ります。	リビングには利用者と一緒に作った四季折々の壁絵やカレンダー、玄関には季節の生花を飾っている。夏には、西日を避けるためにテーブルやソファの配置を変えている。職員は、換気を心掛けて、利用者に座りたい席を尋ねながら居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席を決めて座られる方もあり、その都度説明させてもらい、気持ちよく座る事が出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたものがあれば充分ですと説明しているが、タンス等は購入される方が多いです。	布団やテレビ、ラジオ、化粧箱など使い慣れた物を持ち込んでいる。居室で家族が持参したアルバムを見て懐かしんでいる方もいる。手紙を書きたい、椅子に座ってテレビを見たいなど利用者の要望に合わせて事業所がテーブルや椅子を準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を貼り、自分の部屋と分かる様にしている。浴室・トイレの場所も貼紙をして分かる様にしている。		